

事務事業名	ブランド米推進作付支援事業補助金	所属部	農林振興部	所属課	農政課	
総合計画体系	政策名	(V)挑戦し活力を産みだすまち<産業>	所属G	農業G	課長名	高田 浩二
	施策名	(36)農業の振興	担当者名	渡部 一雅	電話番号	0854-40-1051
	目的	市内の農家	意図	安全・安心な農畜産物を生産するとともに、農業所得が向上する。	(内線)	2414
	基本事業名	(109)担い手の育成・確保	予算科目	会計 款 大事業 大事業名 0 1 3 0 0 1 項 目 中事業 中事業名 0 5 2 5 8 9	農業振興総務管理事業 ブランド米推進作付支援事業補助金	

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度 ~) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (28 年度 ~ 31 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
雲南市のブランド米としてプレミアムつや姫(たたら焔米)を推進していくため、プレミアムつや姫の作付条件をクリアした稲作農家等に対して、米の買い取り価格の一部を補助することにより、稲作経営の安定化や良質な農産物の生産向上とブランド米の推進を行う。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動					
	28年度実績(28年度に行った主な活動) プレミアムつや姫については、JALまね雲南本部が実施主体となり、生産者からの買取価格を8,000円として、促進を進める。その際、買取価格から、実際に販売価格と、販売に要した費用の差額分について、販売促進の必要経費とし、差額分について補助を行う。補助額5分の4。	29年度計画(29年度に計画する主な活動) 平成28年度と同様				
	② 活動指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	ア 農家数	人			3,899	3,899
	イ					
	ウ					
	エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	プレミアムつや姫を生産する農家	ア 農家数	人			3,899	3,899
		イ つや姫作付農家	人			35	75
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)	
ブランド米の推進	ア 上位等級米比率	%			54.3	54.3	
	イ つや姫作付面積	ha			39.0	76.8	
	ウ						

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (28年度決算)	② コストの推移	単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(計画)	
◆ブランド米推進作付支援事業補助金 4,780千円(JALまね雲南地区本部へ)	財源内訳	国庫支出金	千円				
		県支出金	千円				
		地方債	千円				
		その他	千円				
	一般財源		千円			4,780	15,120
	事業費計(A)		千円			4,780	15,120
人件費	正規職員従事人数	人			1		
	延べ業務時間	時間			30		
	人件費計(B)	千円			119		
トータルコスト(A)+(B)		千円			4,899		

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
平成29年度以降生産調整が廃止されるため、米の販売競争が始まり、特色ある米を作付して販売していかないと稲作農家が減少して荒廃農地が増加する。	平成28年度新規事業により、現在のところ改善はない	生産者からは、技術的な指導要望があり、JAと協力して進めている。

事務事業名	ブランド米推進作付支援事業補助金	所属部	農林振興部	所属課	農政課
-------	------------------	-----	-------	-----	-----

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	ブランド米推進のスタートとして、生産者が生産意欲を向上させるためにも、買取価格を補てんする必要がある。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	廃止となった場合は、生産者からの買取価格が下落し、生産意欲の低下と生産量が減少に繋がる。ブランド米の数量確保が困難になり、推進自体が難しくなる。米生産の衰退にも繋がる。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	他に類似する事業はなく、統廃合できない。		
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	理由		ブランド米として全国的に浸透し、市場と消費者から認知されれば、販売価格が安定高値となり、補てんが不要となる。
	<input type="checkbox"/> 削減余地がない			
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由		最小限事務を計上しており、削減の余地はない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由		ブランド米の生産者が対象となっている。公平に確保されている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	ブランド米推進を目指して実施されている事業である。今後推進するため作付面積の確保が重要であり、今後もこの補助事業を継続し、作付面積の拡大を目指す。	

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
		コスト																	
	削減	維持	増加																
成果	向上																		
	維持	●	×																
	低下	×	×																
事業初年度であり、販売促進に係る経費がどうしても多く掛かってしまう。今後は、販売促進経費を抑制する事と、ブランド米としての地位向上を目指す。そのためには、販売方法や作付の技術向上に向けて、関係機関と綿密に協議を進める。	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																		